

2022年度 個人研究実績・成果報告書

2023年 4月16日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	趙 軍
研究課題	武漢にある日本人社会に関する基礎的研究 —1890～1920年代を中心に—				
研究キーワード	武漢・日本人社会・漢口・ 居留民	当年度計画に対する 達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの 成果が達成できた		
関連する SDGs項目	10.人や国の不平等をな くそう	16.平和と公正をすべて の人に	2.飢餓をゼロに	11.住み続けられるまち づくりを	

1. 研究成果の概要

今年度は、武漢に拠点を据えた日本人居留民に焦点を当てて、日本語や中国語の第一次資料（回想録・日記・新聞記事・地方史など）の整理と検証を初歩的に行い、彼らの中のいわゆる「大陸浪人」グループを中心とした人々の規模・組織・中国での活動・生活環境及び近現代日中関係史への影響を分析・検証した。その主な内容は中国語版の新著に反映させた。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

「中山艦博物館と武昌市内の革命関連史跡」（単著）、『南山大学アジア太平洋研究センター報』第17号、2022年6月。

【著書・論文（査読なし）】

『日本“大陸浪人”與侵華戦争』（単著、中国語版、全585頁、430千字）中国・江蘇人民出版社2022年8月発行。

【学会発表等】

①「大学での歴史教育の意味について」、新世紀人文学研究会主催「第5回 新世紀人文学研究会研究大会」（オンライン式）、2022年4月29日。

②「高遠から見るアジア——アジア主義者としての中村弥六」、中村弥六研究会、科学研究費助成金基盤研究C-研究課題「グローバルヒストリーの中のアジア主義者・中村弥六—未公開資料に基づく基礎的研究」共催「シンポジウム 蘇る中村弥六・布引丸事件」（ハイブリッド式）、2022年10月30日。

3. 主な経費

コロナ禍の影響で、中国現地への研究調査が実施できなかったため、主に資料の購入と電子版資料の活用に経費を運用していた。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

特になし。

（本文は2ページ以内にまとめること）